

学界消息

史学研究会関係

史学研究会例会 二月五日(土) 午後一時

楽友会館

九州古墳墓の性格

樋口 隆康

歐洲 帰朝談

井上 智勇

史学研究例会

四月二十三日(土) 午後一時

楽友会館

晩年のマイネッケ

岡部 健彦

播州平野の条里について

谷岡 武雄

漢簡の資料的意義

森 鹿三

国史関係

京都大学新卒業生予餞会 二月二十八日(月)

午後四時より百万遍了蓮寺において新卒業

生十一名の予餞会を行った。小葉田教授以

下教官、先輩、学生等多数参加して卒業生

の前途を祝福し、卒業生また将来の抱負を

語り盛会であつた。

東洋史関係

京都大学新卒業生予餞会 三月二十三日(火)

午後四時より、新卒業生三君の予餞会を京

園において行つた。宮崎・田村両教授をは

じめ、教官先輩学生ら二十名が出席し、卒

業生の前途の多幸を祈つた。

羽田博士追悼講演会 五月二十二日(日) 午

後二時より京都大学人文科学研究所本館講

堂において、東方学会・東洋史研究会共催

のもとに行つた。当日は御遺族を始め多数

の会員が参会した。会は梅原教授の司会に

より、吉川教授の挨拶、安部、田村、宮崎

三教授の「羽田博士の業績」と題する講演、

貝塚教授の挨拶の順で進められた。終つて

午後五時より同館ホールにおいて、追悼茶

話会を行い、故博士を偲ぶ一刻を過した。

なお当日同館会議室においては、博士の御

遺稿や、著書、論文を展覧した。

西洋史関係

京都大学新卒業生予餞会 二月十九日(土)

進々堂において、井上教授、前川助教ほ

か研究室先輩諸兄の出席をえ、志邨晃佑・

山本茂・末川清・荒武鉄郎・森下忠夫・中

村一子六君の卒業を祝福した。

新専攻生、新大学院生歓迎会 四月二日(木)

友会館において、原教授以下出席、新三回

生十一名、新大学院生四名の今後の健闘を

祈つた。

第二回西洋史読書会春季大会 四月二十九日

楽友会館

昨年發足した春季大会は今年から会員互

選による運営委員を中心として約半年以上

プランを練り、始めての試みとしてシンポ

ジウム形式による会を開催した。論題は(一)

古代王権の問題 (二)市民革命の構造 (三)帝國

主義の本質につきそれぞれ發表をえ、それ

について討論がたたかわされた。始めての

形式としてはかなりな成功であつたことを

確信するが、なお今後会員諸兄の御批判に

よつて十分なものとしたい。序にこの西洋

史読書会の会則が可決され、今後はこれに

より会が運営されることとなる。

地理学関係

榎田川流域総合調査

総合研究「榎田川を中心とする南勢平野の

歴史地理学的研究」のための調査は、去る

一月五日〜八日の四日間、第二回の実地調

査を行つた。参加者は前回(昨年七月)と

略々同様、二十数名に及び、調査事項も概

ね前回の成果を更に拡大・補充する方向に

向けられたが、上流域調査者の一部は、古

来の交通路沿いに奈良県へ向い、又或者は

宇治山田市の神宮文庫の史料に当る等、多

方面の調査研究を行つた。本研究は、今回の第二回調査を以て一応現地調査を打ち切り、その成果は追つて発表される予定である。

人文地理学会第九回例会 二月十九日(土)

同志社明徳館

中山 修一

長岡 京
近年における地理学史
研究の動向

野間 三郎

アルプスの交通路

山口平四郎

人文地理学会第十回例会 四月二日(土)

立命館大学地質教室

比較研究上の諸問題

木村 宏

都市と農村の商圏

木地 節郎

戦国末の日本地図(とその
欧州に与えた影響)

中村 拓

京大地理学談話会例会 三月十九日(土)

京都大学地理実習室

例会として新卒業生による卒業論文発表会
を行つた。

日本地理学会春季大会 五月一日(日)―五

日(木)

日本大学

研究発表が数多いので、その中から史学研究
研究会員の発表並びに歴史地理学に関係する
発表題目を列記することとする。庄園に
おける条里遺構

――山陰の三庄園を例として――

山田 安彦

桑原 公徳

東北地方における郷土集落について

長井政太郎

江戸時代における本海道交通と脇往還
との関係について

原沢 文弥

濃尾平野における徳川時代の家族構成
――濃尾農村人口研究 第四報――

坪内 庄次

(共同研究 三重県橿田川流域の歴史地理
学的研究)

自然的基礎

井関弘太郎

橿田川流域における歴史的地域の變遷

谷岡 武雄

近世における土地開發

喜多村俊夫

下流部における土地利用の展開

浮田 典良

上流部における經濟生活の變遷

小池 洋一

工業―松阪木綿

西村 隆男

近代的交通機關の發達

小林 博

集落形態の歴史的諸相

松田 信

交通路と集落の變遷
(シンポジウム)適応

藤岡謙二郎
和田 俊二

考古学關係

京都大学新卒業生予餞考古学談話会 三月十
五日 柴友会館

小野山節氏の卒業予餞と、奈良文化財研究
所に就任された坪井清足氏の送別をかねて
開催。席上左の発表を聴く。

オリエントにおける王陵の成立過程
について

小野山 節

網野町 岡 第二号及び第三号墳の
調査

川端 真治

京都府乙訓郡向日町長岡宮址の調査

梅原未治教授指導の下に、西京高校中山修
一教諭等が、三月八日より約一ヶ月にわた
つて実施。京大考古学教室より樋口隆康講
師・秋山進午氏等が参加し、阪急西向日町
駅北方約五十米の地点で遺構の一部を検出
した。

大阪府南河内郡国分町松岳山古墳の調査

大阪府社会教育課の委嘱を受け、小林行雄
講師を主班とする京大考古学教室員によつ
て、四月四日より約二十日間にわたつて行
われた。その結果、この古墳の主体部は、
堅穴式石室というよりは、後円部墳頂一面
に板石を積んだ積石塚風のものであると見
られることが判明した。